

GIGAに慣れる

デジタルドリル

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

1人1端末の活用においては、自治体や学校によって、デジタルドリルを導入する場合がある。

児童生徒の実態に応じた適切な使用を行うことができれば、子供の学習状況や進捗状況の把握を行うことが容易になり、補足的・発展的な学習を行う場面等において、個別の学習支援を行いやすくなると考えられる。また、子供自身がスムーズに解けた得意な問題やつまづきのあった苦手な問題を把握し、学習の改善につながる活用も期待できる。

■準備するもの：
・デジタルドリル

- ① デジタルドリルを活用する際は、その内容や使用場面を十分検討する（授業の一部、自宅等での学習等）
- ② 子供たちの学習状況を把握し、個別の学習支援につなげるとともに、子供が自ら学習の改善につなげられるようにする

1時間単位に合わせたデジタルドリル活用の考え方の例

○教師が単元を学習する上で効果的な場面において、計画的に活用する。
○学習指導において補助的役割として、例えば知識・技能の習得や定着の場面で、適切な反復による学習指導を進めるようにする。

導入	展開	終末
学習目標の把握 (一問)	問題の解法 ・個別(自力)解法等 ・小集団や学年単位の 考えの交流や振り返り	学習の まとめ (一問)

※ その他、朝学習や放課後の短時間学習での活用も考えられる。

通常の授業においては、例えば終末段階において学習の習熟度を測る練習問題を解く場面が考えられます。授業時間全体を踏まえつつ、練習問題を解く時間を設定します。

環境が整った際には、朝学習や放課後の授業外の学習や、自宅等に持ち帰って学習をすることも想定されます。また、児童生徒の実態に合わせて、宿題の内容や量を調整することも考えられます。その際、時には取り組む内容、量、時間などの目標を子供が決める機会をつくることも考えられます。

■アドバイザーからのコメント

デジタルドリルのデータ等を適切に活用することで、子供の学習状況を把握し、どの問題で誰がつまづいているのかが分りやすくなります。

具体的な使い方については、学校や子供の実態に合わせて、いつどのように使用するのが、子供自身が学習の進め方を考えることも含め、指導の効果が高まるように様々な工夫を考へていくことが大切です。

児童生徒の正答・誤答によって、個別に出題されるデジタルドリル機能のイメージ

※ これは一例で、他の機能の搭載状況により、活用方法も考えられる。



例えば、教師がその時間において達成の目安とする標準的な問題を子供たちの端末に配信します。自動視点機能により、問題に正解すると、より発展的な内容の問題に取り組むことができ、誤答があった場合は、その内容に即して補足的な問題が出されます。システムが正誤の判断によって、より難易度の高い問題を出したり、間違いを重ねることでシステムがつまづきの原因を特定し、それを解決するための新たな問題や解説が表示されたりします。そうした機能を生かしながら、子供自ら学習内容を選ぶようにするなどの工夫も考えられます。

GIGAに慣れる

コミュニケーションツールの設定の工夫と指導

■校種・学年：小学校以上

■活用の概要：

オンラインで文字を使ったコミュニケーションを取る場合、表情や細かいニュアンスが伝わりづらい分、やり取りで思わぬ誤解につながる場合もある。

そこで、コミュニケーションツールの活用を始める際に、学校側で各種の設定を確認した上で、児童生徒に投稿等の記録が残ること、相手との文字・絵文字等の受け止め方のズレについて意識し、責任をもって書き込むように指導するとともに、保護者にもコミュニケーションツールでのやり取りを学校が確認すること等の留意事項について事前に周知し共通理解を図った。

なお、コミュニケーションツールの活用等において個人情報を取り扱うことも想定されるため、個人情報保護条例に則していることを確認した。

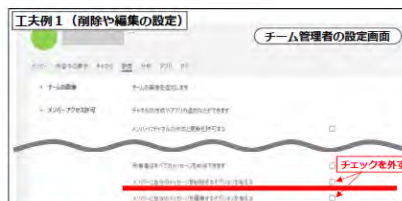
■準備するもの：

- ・掲示板機能、チャット機能、コメント機能（OS標準）
- ・オンラインでやり取りをする際の約束

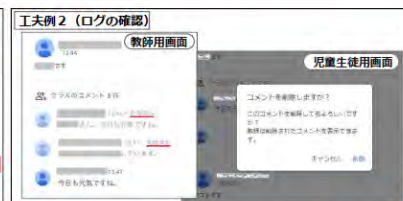
児童生徒の投稿に関する設定の工夫

日常的な活用と継続的な指導、保護者への周知

適切なコミュニケーションツールの活用



掲示板への投稿やチャットは児童生徒が削除や編集できない設定にし、児童生徒が伝わり方や相手への配慮をもって書き込むように指導する。



教師がログの確認や復元ができる設定にした上で、その旨児童生徒に伝え、一度投稿した言葉は削除しても残ることの共通理解を図る。

保護者への周知の例

コミュニケーションツールの設定

- ・チームや学年単位の投稿のみが可能です。
- ・アドバイザーや保護者は投稿の削除はできません。
- ・文字や絵文字の投稿は、写真の投稿と同様に可能です。

コミュニケーションツールで気を付けること

- ・掲示板機能やチームメッセージの投稿(書き込み)では投稿は投稿者の端末と同じで、内容が固定されて表示されます。
- ・ログを確認する際は、メンバーの投稿で、自分自身の投稿を削除してはいけません。
- ・個人情報の取扱い、お金の取扱い、といった、自分や他人の個人情報(住所、電話番号など)、学校のホームページにないような取扱い(金銭貸付)、トラブルにつながるような内容の投稿等に関しては、事前には十分注意する必要があります。また、学校の投稿したメンバーは自分自身で削除したりできないようになっています。

お便り等でも繰り返し周知し、学校と保護者が協力して見守りながら、児童生徒がコミュニケーションツールでやり取りできるようにした。

■アドバイザーからのコメント

コミュニケーションツールは教師がやり取りの内容を確認できるツールであることや、書き込みのログが残るものであるという認識は、児童生徒がオンラインで発言する際にその内容をもう一度見直すことにつながります。設定については、ソフトによって管理できる範囲が違うので、その点に留意することが必要です。

オンライン上で適切なコミュニケーションを取る態度は、繰り返し指導だけでなく、その難しさや望ましい態度について振り返り、話し合うことで養われます。適切な使用時間等を含めて話し合う機会を意図的・計画的に設けることが大切です。